

### 第3章 施策

#### 1 畜産経営の土台となる防疫

##### (1) 家畜防疫の強靱化

###### ◎現状と課題

中国や韓国での口蹄疫の発生や、東アジアでのASFの感染拡大など、近隣諸国において家畜伝染病が継続的に発生している。

また、訪日外国人旅行者数の増加に伴い、旅行者が不正に持ち込んだ肉製品からのASFウイルス検出や体験型旅行に伴う畜産農家との接触、さらに渡り鳥による高病原性鳥インフルエンザウイルスの国内への持ち込み等、家畜伝染病の侵入リスクは年々高まっている。

国内においてもCSFの農場での発生や、野生イノシシでの感染が拡大していることから、「水際防疫」、「地域防疫」、「農場防疫」、万一の発生に備えた「迅速な防疫措置」で構成された「みやざきの家畜防疫4本柱」について、引き続き重点的に取組を進め、本県の防疫レベルの高位平準化による「防疫力の強化」を図る必要がある。

これまでも、本県では、口蹄疫や鳥インフルエンザ等の発生を契機に情報の共有化、関係機関との連携体制構築など、県全体の防疫体制の強化を進めてきた。

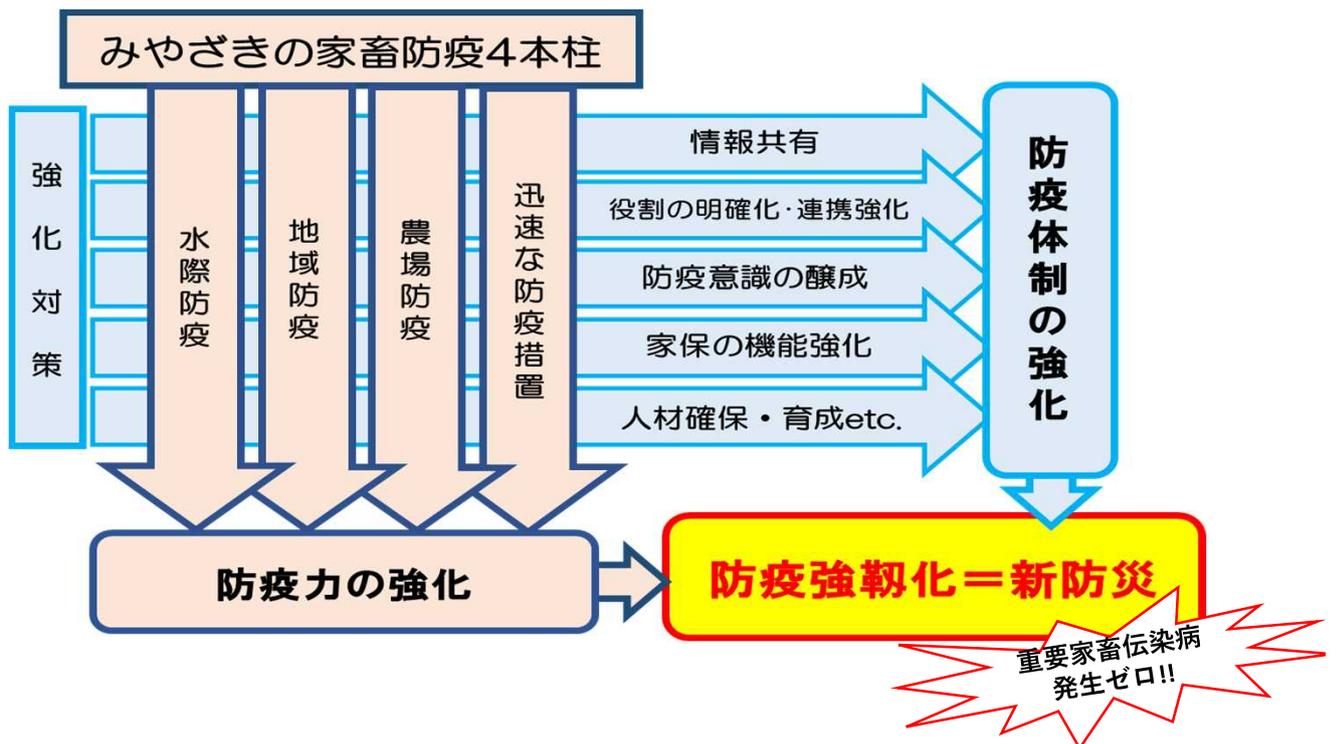
今後、「みやざきの家畜防疫4本柱」をより強固にするため、県、市町村、関係団体等の役割の明確化や連携強化を進めるとともに、県民一体となった家畜防疫体制を構築するなど、更なる本県の「防疫体制の強化」が必要である。

さらに、家畜防疫の中核となる家畜保健衛生所の機能強化や、次世代の生産現場の防疫を支える産業動物獣医師や県職員獣医師の確保・育成を計画的に行う必要がある。

###### ◎取組方針

「防疫力強化」及び「防疫体制強化」の相乗効果により、本県の「防疫強靱化」＝「新防災」につなげ、『重要家畜伝染病発生ゼロ』を目指すことで、持続可能な魅力ある畜産の発展に資する。

###### ◎家畜防疫の取組体系



## ① 防疫力の強化

## ◎具体的な取組内容

小項目	取組内容
水際防疫	空港、港湾等への国内外の家畜伝染病の発生情報等の提供
	水際施設の持続的な消毒体制を整備するための取組支援
	国(動物検疫所)と連携した渡航者への家畜防疫に対する啓発活動の実施
地域防疫	地域単位での防疫広報活動、研修会開催、農場の指導等の取組の継続・強化
	初動防疫対応のための防疫体制の維持・強化
	各地域の家畜市場やと畜場等の畜産関連施設における防疫体制の維持・強化
	地域防疫体制の高位平準化に向けた自衛防疫団体(畜産協会、市町村自衛防疫推進協議会等)との連携
	地域内の生産者同士が相互に飼養衛生管理をチェックする体制の構築
農場防疫	「宮崎県飼養衛生管理指導等計画」に基づく家畜防疫員による定期的な農場巡回と様々な機会を捉えた生産者への指導の徹底
	家畜伝染病予防法に基づく定期報告の啓発・指導
	農場を訪問する畜産関係者(JA、NOSAI、家畜人工授精師協会、獣医師会、インテ等)による通常業務内での生産者への飼養衛生管理基準の指導、助言、啓発の実施
	農場防疫の強化に資する取組(防疫資機材の整備、畜舎出入時の交差汚染防止対策等)に対する支援
	飼養衛生管理基準の遵守を基礎とし、より高度な衛生対策に加え、動物用医薬品の適正使用等による安全な畜産物の生産
	対象とする病原体や物品に応じた適切な消毒方法に関するチラシ等配布や研修会開催による啓発
	慢性疾病などの浸潤状況の把握、清浄化に向けた啓発・指導及び関係機関と連携した家畜損耗防止対策の実施
迅速な防疫措置	特定症状の周知や家畜の健康観察の徹底などによる、異常家畜の早期通報に関する生産者及び管理獣医師等への指導の徹底
	年度毎の防疫対策本部の各班体制の整備及び県防疫マニュアルの適宜見直し
	県域及び各地域単位での定期的な防疫演習の実施
	病性診断研修や発生農場での事前調査、農場防疫指揮等を担うリーダーの養成研修の実施
	防疫に必要な関連情報の収集と家畜防疫情報システムの定期更新
	迅速な初動防疫に対応する防疫資材等の在庫管理システムによる一元化及びオール宮崎での動員体制の構築
	市町村、団体、支庁・農林振興局等と連携した適切な埋却地確保の推進

### 第3章 施策

#### ② 防疫体制の強化

##### ◎具体的な取組内容

小項目	取組内容
情報共有	家畜防疫情報メールサービス等を活用した国内外の家畜伝染病の発生情報等の迅速な提供
	情報及び危機意識の共有化を図るための家畜伝染病の発生状況等に応じた防疫会議の開催
役割の明確化・連携強化	県、市町村、関係団体等の役割の明確化
	市町村や関係団体及び防疫協定締結団体(建設業協会、トラック協会等)を参集した県域及び各地域単位での防疫連携会議の定期的な開催
	NOSAI獣医師や獣医師会等との連携による伝染病発生時の防疫従事者の確保
	九州各県との家畜防疫連携会議や県境家畜防疫連絡協議会等の定期的な開催
	宮崎大学等との産業動物防疫の研究、研修等の実施及び家畜伝染病発生時の疫学調査に関する連携推進
防疫意識の醸成	県域及び地域単位での定期的な防疫研修会の開催
	「特別防疫月間(4月)」、「家畜防疫強化月間(2月)」、「県内一斉消毒の日(毎月20日)」の周知徹底及び啓発
	口蹄疫メモリアルセンターの常設展示、公共施設等におけるパネル展示等の実施や、県政番組、新聞広告、チラシ配布、SNSによる県民ぐるみの防疫意識醸成
	県民一体となった家畜防疫体制の構築
家保の機能強化	早期診断に向けた高度検査機器の導入や定期更新
	国や宮崎大学等との連携による高度診断体制の構築
人材の確保・育成	就職説明会、出張講義、インターンシップ受入れ等による産業動物獣医師、県職員獣医師確保
	国等の研修や、リカレント教育及びベテラン県職員獣医師を活用したOJTなどを組み合わせた研修体系による若手職員の育成

### 水際防疫



水際施設での消毒マット設置



検疫探知犬常駐の実現

### 地域防疫



自防単位での防疫研修会



地域ぐるみの農場巡回消毒

### 農場防疫



農場への野生動物侵入防護柵設置



飼養衛生管理基準遵守

### 迅速な防疫措置



対策本部での防疫方針策定



発生農場での防疫作業

## 第3章 施策

### 2 持続可能な畜産振興への取組

#### (1) 生産力の強靱化

##### ① 生産基盤の強化（肉用牛）

###### ◎現状と課題

本県の繁殖雌牛の飼養頭数は口蹄疫の発生により減少したが、その後の生産基盤強化への取組の成果により、前プランの目標を上回り、令和2年2月現在で82,900頭となった。しかしながら、農家の高齢化や担い手不足により今後も農家戸数が減少することが危惧されており、各種事業を活用した、新規就農や規模拡大の支援が必要である。

###### ◎目標値

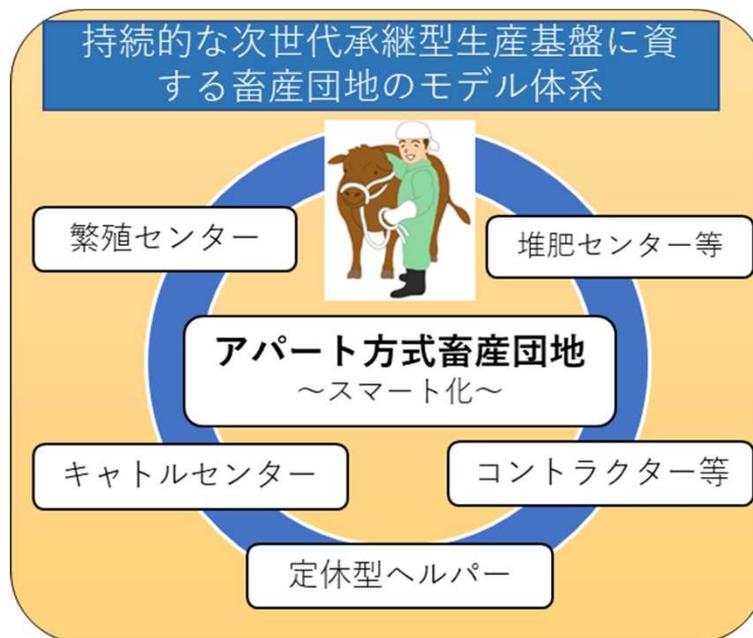
小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
繁殖雌牛頭数	82,900頭	91,000頭	畜産振興課調べ
子牛取引頭数	66,600頭	73,400頭	宮崎県の肉用子牛
肉用牛拠点施設整備数	35か所	38か所	畜産振興課調べ

###### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
人・牛プランの推進	地域ごとの具体的な目標である「人・牛プラン」で計画している増頭目標の達成や、生産性向上支援の実行による地域生産基盤の強化	
分業化・規模拡大対策	キャトルセンターや繁殖センター等拠点施設の整備支援や、利活用推進対策による増頭	
	コントラクターやTMRセンターの整備、利活用の推進による分業体制の構築を通じた規模拡大	①
	畜産クラスター事業等を活用し、施設整備の事業推進や、担い手確保対策による大規模法人経営体の育成	
担い手対策	アパート牛舎整備や承継事業の活用等による新規参入しやすい環境作り	②
	事業を活用した施設整備支援や、技術・経営指導による新規就農者や中心的経営体の規模拡大推進	
	拠点施設等を活用した、研修体制の構築による法人就農、新規就農の拡大	③

◎重点的取組に係るスケジュール

取組内容		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
①	コントラクターやTMRセンターを活用した分業化推進	TMRセンター等整備推進	分業化の推進			
②	アパート牛舎整備等による新規就農支援	アパート牛舎等整備推進		新規就農入植支援		
③	担い手の研修体制構築	研修体制の構築		研修体制を活用した担い手育成		



【キャトルセンター、繁殖センター等拠点施設の整備】

### 第3章 施策

#### ① 生産基盤の強化（乳用牛）

##### ◎現状と課題

県内の酪農生産基盤は、戸数減少に伴い飼養頭数が減少しているものの、1戸あたりの経営規模拡大は進んでいる。

生産基盤の強化のためには、増頭意欲のある農家が持続的に経営継続できるよう、育成預託や酪農ヘルパー、飼料生産など外部支援組織の活用による分業体制の強化とともに、効率的な牛舎環境整備や能力の高い後継牛の導入に取り組む必要がある。

##### ◎目標値

小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
生乳生産量	77,542 t	82,000 t	牛乳・乳製品統計
育成預託牛頭数	650頭	700頭	酪農公社調べ

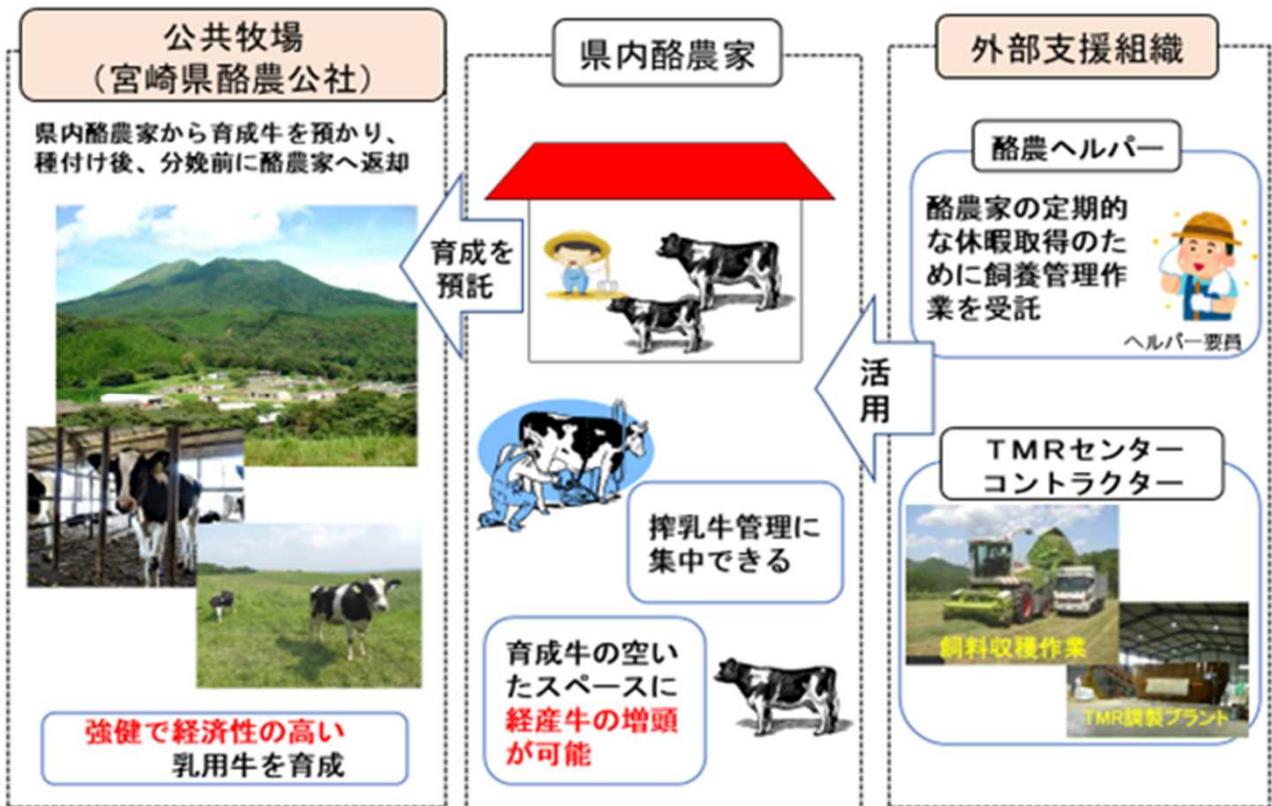
##### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
酪農クラスター計画の推進	酪農における中心的経営体の目標達成のための事業支援等を、協議会と連携し地域が担うことで生産基盤の強化を支援	①
担い手・規模拡大対策	関係機関と連携した増頭意欲の高い担い手のための畜産クラスター事業等の活用による畜舎・排せつ物処理施設・機械等の施設整備の支援	②
	関係機関と連携した人材育成や、新規参入者への空き牛舎等のリース方式貸付などの就農に対する支援	
省力化・分業化対策	公共育成牧場の活用支援による、強健で耐久性に富み、生涯乳量の多い優良後継牛の育成	③
	酪農ヘルパー、コントラクター、TMRセンター等外部支援組織の育成強化や、共同利用によるバイオマス活用体制の推進	④

◎重点的取組に係るスケジュール

取組内容	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
① 酪農クラスター計画の目標達成の支援	酪農クラスター協議会への指導・助言				
② 増頭のための事業の活用支援	増頭支援 事業紹介				
	事業効果検証		取組事例集の作成		
③ 公共育成牧場の支援強化による優良後継牛の確保	公共育成牧場への支援・強化				
	関係機関との連携強化				
④ 外部支援組織等の育成強化による省力化の推進	TMRセンター設立支援		組織への支援・PR		

外部支援組織や公共育成牧場を活用した更なる分業化の推進



## 第3章 施策

### ① 生産基盤の強化（豚）

#### ◎現状と課題

県内の養豚生産基盤は、高齢化等により戸数は減少しているものの、法人化の加速により1戸あたりの経営規模拡大は順調に進んでいる。

生産基盤の強化のためには、規模拡大意欲のある農家が持続的に経営できるよう、省力化のためのスマート化や感染連鎖リスク防止のための農場の分散管理、ヘルパー組織の活用検討を進めるとともに、衛生水準の高い豚舎環境整備や排せつ物処理施設等の機能高度化を推進する必要がある。

#### ◎目標値

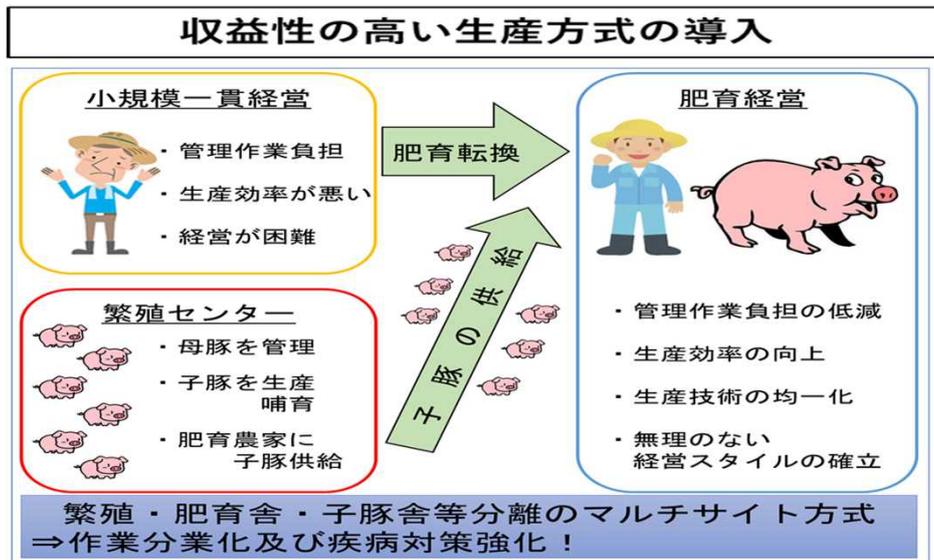
小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
肉豚出荷頭数	1,380千頭	1,460千頭	畜産振興課調べ

#### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
養豚クラスター計画の推進	養豚における中心的経営体の目標達成のための事業支援等を地域が担うことで、地域生産基盤の総合的な強化を支援	①
担い手・規模拡大対策	関係機関と連携した増頭意欲の高い担い手のための畜産クラスター事業等の活用による畜舎・排せつ物処理施設・機械等の施設整備の支援	②
	事業を活用した新規農場建設における関係機関と連携した周辺環境に配慮した事前調整や支援	
省力化・分業化対策	高水準の衛生管理が可能となるマルチサイト方式を採用した農場整備の支援	
	関係機関と連携した危機事象に対応可能な養豚におけるヘルパー等の外部支援組織の整備や次世代を担う養豚技術者の育成	③

◎重点的取組に係るスケジュール

取組内容		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
①	養豚クラスター計画の目標達成の支援	養豚クラスター協議会への指導・助言				
②	規模拡大のための事業活用支援	規模拡大に向けた支援事業紹介				
		事業効果検証			取組事例集の作成	
③	ヘルパー等新たな外部支援組織の体制整備の検討	外部支援組織体制整備の可能性検討				
			組織実現に向けた協議			養豚ヘルパーの設立



【最先端技術を駆使した肥育豚舎整備】



(フルウィンドレス豚舎でのオールイン・オールアウト) (浄化槽での遠隔管理システム)

### 第3章 施策

#### ① 生産基盤の強化（鶏）

##### ◎現状と課題

県内の養鶏生産基盤は、ブロイラーにおいては経営規模拡大が進み、出荷羽数も増加傾向にあるが採卵鶏・みやざき地頭鶏においては戸数減少に伴い飼養羽数も若干、減少傾向にある。  
生産基盤の強化のためには、増羽意欲のある農家が規模拡大や持続的に経営継続できるよう、事業への取組支援を行う必要がある。  
また、消費者の安全・安心な国産物需要が高まる中、需要に即した安定的な畜産物供給基地としてのひなの安定供給など体制整備が重要である。

##### ◎目標値

小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
ブロイラー出荷羽数	136,597千羽	142,500千羽	畜産統計
鶏卵生産量	56,876t	61,500t	畜産物流通統計
みやざき地頭鶏出荷羽数	431千羽	580千羽	みやざき地頭鶏事業協同組合調べ

##### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
クラスター計画の推進	養鶏における中心的経営体の目標達成のための事業支援等を地域が担うことで、地域生産基盤の総合的な強化を支援	①
担い手・規模拡大対策	関係機関と連携した規模拡大のための事業活用による衛生的で合理的な鶏舎・機械等の施設整備支援	②
	畜産クラスター事業等を活用した新規農場建設における関係機関と連携した周辺環境に配慮した事前調整や支援	
改良選抜の促進・防疫体制の強化	種鶏の改良選抜、ひなセンターの生産体制強化等による素びな供給体制の強靱化と効率的な生産、飼養管理技術の向上支援（みやざき地頭鶏）	③
	防疫体制の強化と飼養衛生管理基準の遵守	

◎重点的取組に係るスケジュール

取組内容	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
① クラスター計画の目標達成の支援	クラスター協議会への指導・助言				
② 規模拡大のための事業活用支援	規模拡大に向けた支援事業紹介				
	事業効果検証			取組事例集の作成	
③ みやざき地頭鶏の生産体制強化	ひなセンター指導強化				
	農場巡回指導による生産体制強化				

### 養鶏産業での生産基盤強化

**クラスター事業を活用した生産基盤強化の推進**



**県産鶏肉・鶏卵の輸出拡大に向けた支援強化**

最新鋭の食鳥処理場やHACCP基準を満たした施設整備




鶏卵・鶏肉加工品等

↑

輸出量UP

### みやざき地頭鶏の生産体制強化

**【支援チーム】**  
県内6チーム

- ・試験場
- ・振興局
- ・普及センター
- ・家保協
- ・事業協

→

改訂版  
マニュアル  
に基づく  
技術指導

**【県内38農場】**



**【フィールドでの実証】**

データ  
収集

- ・育成率
- ・出荷体重

育成率向上  
→出荷羽数増

増体UP  
→飼育期間短縮

### 第3章 施策

#### ② 生産性の向上（肉用牛）

##### ◎現状と課題

肉用牛繁殖経営においては、生産性の向上による子牛出荷頭数の増頭が重要であるが、県内の分娩間隔をみると、目標とする年1産に至っていない。また、肥育経営においては、子牛価格の高騰や枝肉相場の変動による影響を受ける状況にあるが、肉質、増体ともに向上が図られている。

##### ◎目標値

小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
分娩間隔410日以上の繁殖雌牛頭数割合	32.5%	28.2%	畜産協会調べ
出荷月齢	29.5か月	27.0か月	国家畜・鶏改良増殖計画

##### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
繁殖経営における生産性の向上	繁殖管理システムや分娩監視システム等のICT機器を活用した繁殖管理による分娩間隔の短縮や分娩事故発生率の低減	①
	繁殖センターやキャトルセンター、TMRセンターを活用した分業化による繁殖成績の向上	
飼養管理技術の改善	研修会や巡回指導を通じた、飼養環境改善による子牛事故率の低減	
	コンサルチーム（普及センター、市町村、JA、NOSA I等）による組織的な技術指導	②
	肥育期間短縮による生産コスト低減に向けた飼養管理技術の検証及び技術普及	③
産肉性の向上とおいしさの探求	増体能力の向上を目指した肉質・肉量兼備の種雄牛の造成	
	高能力雌牛群の整備による雌牛側からの育種改良の推進	
	おいしさに関連すると思われる一価不飽和脂肪酸（MUFA）やアミノ酸などの指標の探求	④
	MUFA等、美味しさに関する指標を取り入れた種雄牛の選抜	

◎重点的取組に係るスケジュール

取組内容		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
①	ICTを活用した繁殖性の向上や分娩事故の低減	ICT技術の導入推進			生産性向上の検証、波及	
②	コンサルチームによる組織的な技術指導	コンサルチームによる技術指導				
③	肥育期間短縮に向けた技術検証及び技術普及	肥育期間短縮による枝肉への影響検証			検証結果に基づく技術普及	
④	おいしさに関連する指標の探求	おいしさ関連指標の探求		おいしさ関連指標を活用した育種改良		

新たな販売戦略を構築し、本県独自の経済指標を検討

～牛肉の「おいしさ」追求～

※ストーリー性を重視  
※宮崎オリジナルで勝負

「おいしい」  
宮崎牛づくり

遺伝的アプローチ  
・遺伝的に「おいしさ」に関する因子を持つ牛の選抜と造成

理化学的アプローチ  
・脂肪酸（脂の質）  
・アミノ酸（旨味）  
・ラクトン類（香り）等




【枝肉の脂肪酸組成の測定】



（首に付けた発信器が行動記録を送信）



（牛の繁殖情報や発信器の行動記録を携帯電話で確認）

【ICT機器を活用した生産性向上】

### 第3章 施策

#### ② 生産性の向上（乳用牛）

##### ◎現状と課題

県内の乳用牛における1頭あたり生乳生産量は、牛群検定成績の活用や改良、飼養管理技術向上により年々増加しているものの、全国平均を大きく下回っている。  
生産性向上のためには、暑熱ストレスによる夏季の繁殖性の低下や食欲減退に起因する乳量・乳質低下を防ぐための飼養環境や衛生環境改善を図る必要がある。  
また、生産性が向上することで国際競争に対応できる持続的な高収益経営体制の構築に取り組むことが重要である。

##### ◎目標値

小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
経産牛1頭当たり年間乳量 (牛群検定305日乳量)	9,512kg	10,000kg	乳用牛群検定 (家畜改良センター)

##### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
飼養環境の改善	農場ごとの課題に対応した暑熱対策の推進による乳量の向上	①
	効率的な畜舎整備や搾乳の機械化（搾乳ロボット・キャリーロボット）による省力化の推進	
飼養・衛生管理技術の向上	牛群検定成績やバルク乳検査を活用した飼養管理技術の向上支援による乳質改善の推進	②
	繁殖性向上を図るための新鮮卵移植等を活用した夏季受胎率の向上	
牛群整備と所得向上	性判別技術等（精液・受精卵）を活用した計画的な後継牛の確保	③
	和牛受精卵移植の活用による和牛子牛販売での農家所得の確保	

◎重点的取組に係るスケジュール

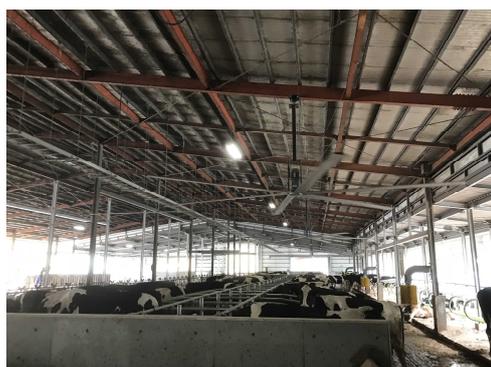
取組内容		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
① 飼養環境の改善 (暑熱対策)		暑熱対策への指導・助言				
		省力化の推進による作業効率化(搾ロボ・キャリロボ)の推進				
② バルク乳検査による乳質改善		バルク乳検査による重点乳質改善指導			乳質改善の事例集作成	
③ 受精卵活用による牛群整備と所得向上		性判別精液や受精卵活用による優良後継牛の確保への推進				
		和牛受精卵移植の活用による農家所得向上への推進				



【搾乳ロボット(フリーバーン方式)】



【自動搬送装置キャリロボ(つなぎ方式)】



【暑熱対策による取組例】

- (左上) 牛舎内換気扇設置
- (右上) 酷暑ストレス対策ウェア
- (左) 自動開閉カーテン

## 第3章 施策

### ② 生産性の向上（豚）

#### ◎現状と課題

県内の養豚においては、これまでに規模拡大が進んできたが、更なる生産性の向上のためには、飼養衛生管理基準の遵守徹底による豚熱などの疾病予防やスマート畜産を活用した作業の効率化により、飼養環境や衛生環境の改善を図る必要がある。

また、地域内連携による繁殖・肥育の農場分離方式での作業分業化に取り組むことで、生産性の向上を図り、防疫対策を徹底することで障壁となる県内への種豚導入などの課題解決を図るなど、国際競争に対応できる持続的な高収益経営体制を構築することが重要である。

#### ◎目標値

小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
母豚1頭当たり年間出荷頭数	18.8頭 (21.2頭)	23.0頭 (25.0頭)	ペンチマキング PigINFO (クラスター事業活用農場平均)

#### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
飼養環境の改善	AIを活用した畜舎環境制御、画像解析による豚体重測定システム等を活用した作業効率化の推進による労力軽減及び生産性の向上	①
	小規模一貫経営から肥育経営への転換による地域内繁殖・肥育分離生産体制を確立し、分業化を図り、生産性向上とコスト低減を推進	
飼養・衛生管理技術の向上	高水準の衛生管理が可能となるマルチサイト方式導入推進による、疾病予防や事故率低減対策の支援	②
	飼養衛生管理基準の遵守徹底の指導	
種豚導入支援と所得向上	遺伝的能力（多産系・産肉性）の高い種豚活用やスマート畜産による、生産性向上に向けた研究	
	繁殖性や産肉性に優れた農家のニーズに合った能力の高い種豚導入対策を中・長期的に支援することによる農家所得の確保	③

◎重点的取組に係るスケジュール

取組内容		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
①	飼養環境の改善 (労力軽減対策)	スマート畜産の実証		農場での普及促進		
		試験機関やメーカーとのマッチング				
②	マルチサイト方式 導入推進 (疾病予防・事故率低減)	マルチサイト (分業) 施設整備とデータ整理		成果のデータと事例分析		
③	優秀な種豚導入支援 (所得向上)	種豚導入による基盤強化支援		種豚場の誘致や整備支援		



**オートソーター**



【野生動物侵入防護柵設置】

出荷体重の安定化、  
出荷作業の軽減

【オートソーティングシステム (自動計量機)】

KDF IoT Platform SKOV 繁殖舎			
交配エリア		妊娠エリア	
気温(室内)	気温(外気)	気温(室内)	気温(外気)
20.70°C	9.88°C	20.90°C	9.84°C
湿度	CO2濃度	湿度	CO2濃度
64.00%	1,697.6	51.00%	1,400.0

【豚舎環境モニタリングシステム】



【豚舎環境モニタリングによるアラート通知】

## 第3章 施策

### ② 生産性の向上（鶏）

#### ◎現状と課題

県内の養鶏においては、暑熱対策など鶏舎環境の整備・改善や、飼養管理・育成技術の向上、また、防疫体制・疾病対策の強化のためのウィンドレス鶏舎など衛生レベルの高い最新式鶏舎の導入や、農場での飼養衛生管理基準の遵守により生産性向上を図ることが重要な課題である。

#### ◎目標値

小項目	基準（令和元年度）	目標（令和7年度）	出典
ブロイラーの生産率（回転）	4.84回転	5.0回転	畜産統計 （出荷羽数/飼養羽数）
みやざき地頭鶏の育成率	80.5%	91.0%	みやざき地頭鶏事業 協同組合調べ

#### ◎具体的な取組内容

細項目	取組内容	重点
飼養環境の改善	暑熱対策（鶏舎内・外）の徹底など、飼養環境の改善指導	①
	改訂版みやざき地頭鶏マニュアルに基づく育成期飼養管理の徹底のための地域指導班による巡回指導（みやざき地頭鶏）	②
	飼養衛生管理基準の遵守徹底のため、関係機関が連携して行う基準に基づく巡回指導体制の強化	③
	各種研修会等を通じて行う、労力軽減・生産性向上のためのスマート畜産や最先端技術等の普及・啓発	

#### ◎重点的取組に係るスケジュール

取組内容	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
① 飼養環境の改善 (ブロイラー・採卵鶏)	暑熱対策への取組啓発と支援				
② マニュアルに基づく飼養環境の改善 (みやざき地頭鶏)	マニュアルに基づく巡回指導 (育成率向上)		出荷率向上への取組		
			育成率向上の成果報告		
③ 飼養衛生管理基準の遵守指導	飼養衛生管理基準に基づく巡回指導と農場防疫の徹底				



【衛生レベルの高いウィンドレス鶏舎】



【捕鳥作業の自動化による開発・実証】



【関係機関との連携による巡回指導】



【整備されたみやざき地頭鶏 原種鶏場】